

さくら第525号

令和 5年9月

# さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

使ったところが  
強くなる  
頭でもからだ  
でも  
その反対  
使わぬところは  
みつを

## 『不便さのススメ』

世の中、日進月歩で便利になりその発達は際限なく進歩しとどまることがありません。北陸新幹線が来年春には金沢駅から敦賀駅まで延び、時間が短縮され目的地に速く着きます。

また、通信機器の発達は目覚ましく幼い子までがスマートホンで連絡したり、インターネットでユーチューブを見る時代です。

今年一番驚いたことはチャットGPTです。人工知能が驚くほど進歩し、検索する幾つかの要件をインプットすれば、あたかも本人が書いたと思われるような内容の原稿が瞬時にできあがります。夏休みの自由研究もかたんに即座に完成するのでしょうか。よく似た内容ができあがるかも知れませんね。

さて、便利なことはすべてにおいて良いことだらけでしょうか？今年の夏というより、6月前から気温が上昇し、最高気温が8月7日には三国で県内最高の39.7度を越えました。

ふつうの体温を越え、まるで病気のような高温です。幸いにもエアコンがあるからどうにか過ごせますが、熱中症が続出する昨今です。7月には国連の事務総長が「地球は沸騰化」の時代に入ったと警告しています。

地球温暖化が気温アップの要因と叫ばれ続けていますが現実には改善されません。快適な生活を常に追い求めることはすべてにおいていいことなのでしょうか？

ところで、文明の発達は人間を幼稚にするといわれています。フランスの哲学者ブレイズ・パスカルは「人間は自然の中では葦のように

弱い存在である。しかし、人間は頭を使って考えることができる。考える事こそ人間に与えられた偉大な力である」と述べていますが、更に文明が進歩すると人間は何も考えないただのひ弱い1本の葦になるのでしょうか。

楽で快適な生活は便利ですが、ここで発想をかえて不便さの中に自分をおいてみるとうなるのでしょうか。意外とおもしろい体験ができて、ものの見方や考え方に変化が生まれると思います。

ある役者はセリフを覚えるのにその言葉を一字一句手書きをしながら覚えるそうです。書きながら口に出すとその場の状況をイメージするので効率がよいそうです。

私は塾報さくらを作成する時に、不明な言葉や漢字などを調べる時には主に辞書を使います。ハガキをよく書きますが紛らわしい言葉や知っている漢字でもよく辞書を開きます。

すると、探す時にその近くにある漢字に目が移り、そのまた関連する字からまた新しい意味が分かり楽しくなります。

書店に行くと欲しい本のタイトルを店員さんに尋ねずに自分で探します。見つける時間がかかりますが、探す時に思わぬ本を見つけ、うれしくなります。

年配の方からよく言われることは、漢字を忘れた、簡単な計算でもまちがう、地図の見方に手間取るなど、便利な機器を使うことによって身体が退化することです。また、歩くことが少ないので足腰が弱くなったとも聞きます。

アナログであるそろばんを学習する、使うことで脳細胞が活性化されることは科学的に証明されています。特に暗算はさらに右脳を鍛えます。

日々の生活のなかで、面倒くさいと思われることや、不便だなと感じることをいろいろやってみましょう。インスタントカレーより、材料を選び手間をかけて調理しどんな味にするか考えながら作るから、おいしさが増すのです。不便だなど思うことにチャレンジすると創意工夫の気持ちもちが芽生え、おもしろい体験ができます。

石仏 誰が持たせし  
草の花  
季語 草の花  
小林一茶